

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00460

研究課題名（和文）20世紀後半のアメリカ文学・文化におけるトラウマとしての奴隷制度の表象

研究課題名（英文）Representation of Slavery as Trauma in American Literature and Culture in the Latter Half of the 20th Century

研究代表者

和氣 一成（WAKE, ISSEI）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授

研究者番号：10614969

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：August Wilsonの作品の分析では、憑在する亡霊がいかに奴隷制度の歴史・記憶を表象しているか、黒人主体が自分たちの祖先の奴隷としての過去にどのように対峙し、どのような歴史を記憶し忘却することを選択するのかという点を検証した。Haile GerimaのSankofa (1993)研究では、“dark tourism”に注目し主人公が奴隷としての祖先の記憶/歴史の断片に触れることにより、自らの出自について確固たる歴史意識を持つ女性へと変貌を遂げる点を検証した。その他の研究では、映画を取り上げ、奴隷制の歴史的、社会的文脈との関連性を明らかにし、トラウマとしての奴隷制度の問題を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では20世紀後半のアメリカ文学・映画のテキストを対象として奴隷制度の記憶と歴史、その表象の問題を「トラウマ理論」を用いて探究した。アメリカ国家が抱えるトラウマとしての奴隷制度の存在を明らかにしていくことと、奴隷制度の記憶が時に歪曲されて記憶され、時には完全に封印され忘却されてしまい、時には21世紀を生きる我々にも無意識的なレベルにおいて、その強烈な影響を顕在化させていくことは重要である。これらは、たとえば原爆投下や、震災のトラウマの影にまだに苦しんでいる今日の日本社会が直面し、問い続けていかなければならない必要不可欠な問題であると考え、ここに本研究の学術的意義と社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In the analysis of August Wilson's primary works, I have examined how lingering hauntological spirits symbolize the repressed history and memory of slavery, and how black individuals confront their ancestors' past as slaves and choose what history to remember and forget. In the study of Haile Gerima's film Sankofa (1993), the attention was given to "dark tourism," where the protagonist encounters fragments of the memory/history of their enslaved ancestors. This exploration leads the protagonist to transform into a woman with a strong historical consciousness about her own origins. Other studies have focused on contemporary films, revealing their connection to the historical and social context of slavery and examining the issue of slavery as trauma.

研究分野：米文学 米文化（映画） 批評理論

キーワード：Trauma Slave Hauntology Postmemory Memory studies Slave narrative Afrofuturism Intergenerational Trauma

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

米文学の先行研究では、奴隷制度をトラウマとして検証した学術成果は少なく、その中でもキャンノン文学作品に限定されがちで、劇作品や映画、博物館など広く文化事象を分析対象とする研究は少なかった。また、奴隷制度の歴史的、社会的背景に関する研究は進み、現代文学作品への影響関係は指摘されてきたが、単に奴隷制度との因果関係を指摘する先行研究が多く、理論的な分析は不十分であった。

2. 研究の目的

本プロジェクトでは4年間で以下の点を明らかにすることを目的とした。

1. Alice Walker の *Meridian* (1976) の分析

前プロジェクトで扱った Jean Toomer の *Cane* (1923) の分析の枠組みが有効であると考えている(実際に本作品は *Cane* から大きな影響を受けている)。つまり、本作品には一見無関係に思われる断片的な逸話が挿入され、全体として統一を欠いていると批評家たちにみなされてきたが、むしろその断片化された記憶/歴史の痕跡の中にこそ、普遍化され、都合よく歴史的に解釈されてしまうことを拒む複数のトラウマ的記憶、転覆的な可能性を潜在させ胚胎していると捉え直すことを目的とする。

2. August Wilson の *The Piano Lesson* (1987) の分析

(1) Charles 家に憑在する亡霊がいかに奴隷制度の歴史・記憶を表象しているか、(2) 黒人主体が自分たちの祖先の奴隷としての過去にどのように対峙し、どのような歴史を記憶し忘却することを選択するのかという点を検証していく。さらに本作品が上演された当時の歴史的、社会的な文脈との関連性まで明らかにし、トラウマとしての奴隷制度の問題を検証する。

3. Haile Gerima の映画 *Sankofa* (1993) とバルティモアにある National Great Blacks in Wax Museum、Reginald Lewis Museum の比較研究

黒人性の主体形成におけるトラウマとしての奴隷制度の問題を検証する。まだ研究が浅いこの“dark tourism”を中心テーマに据えた本映画では、主人公 Mona が奴隷としての自分たちの祖先の記憶/歴史の断片に触れることにより派手なファッションモデルから自らの出自について確固たる歴史意識を持った女性へと変貌を遂げる。本作品が史実の Ghana からアメリカへの奴隷貿易の歴史を扱っている点を中心として分析し、同様に奴隷制度の歴史をたどる“slavery tourism”や“heritage tourism”などの流行との関連性を検証する。さらに *Twelve Years a Slave* (2013) など類似したテーマを共有する他の映画との比較も試みる。

4. Toni Morrison の *Love* (2003) の分析

同じくトラウマとして奴隷制度の陰が刻印されている Morrison の作品 *Tar Baby* (1981) や *Beloved* (1987) との比較を通して本作品とそれらとの共通点と差異を検証する。各人物が Bill Cosey についての記憶/歴史認識を通して主体化されていくプロセスに、亡霊的に潜在し続けるトラウマとしての奴隷制度の問題がある点を指摘することを大きな目的とする。

3. 研究の方法

本研究では現代(20世紀後半)アメリカ文学・文化(映画、博物館)のテキストを対象として奴隷制度の表象、その記憶の歴史化のプロセスを「トラウマ」理論の下で捉え直す。

Alice Walker の *Meridian*、Toni Morrison の *Love* に関する研究では、断片化した形式で紡がれていく物語に奴隷制度がトラウマとして亡霊的に憑在しているさまを検証する。

2度のピューリッツァー賞を受賞した August Wilson の *The Piano Lesson* (1987) の研究では、(1) Charles 家に憑在する亡霊がいかに奴隷制度の歴史・記憶を表象しているか、(2) 黒人主体が自分たちの祖先の奴隷としての過去にどのように対峙するのか、を検証する。

Haile Gerima の映画 *Sankofa* (1993) と National Great Blacks in Wax Museum、Reginald Lewis Museum の比較研究では、20世紀後半～現在へと奴隷制度の記憶の「消費」され方に着目し、黒人性の主体形成におけるトラウマとしての奴隷制度の問題を検証する。

4. 研究成果

上記については現在論文を推敲中であるが、その研究過程で新たなる研究課題を見出し、下の研究成果、 、 、 にまとめた。研究成果、 については予定通り研究を実施した。

研究成果 和氣一成 ““ Spirit of the Dead, Rise up! ” Rewriting the Slavery History through the Palimpsest Historiography in *Sankofa* .” 早稲田大学『学術研究：人文科学・社会科学編』2020, 第68号, 177-93頁.

研究業績 和氣一成 “Black History as Black Horror The analysis of the Film *Get Out* through Trauma Theory .” 早稲田大学 『学術研究：人文科学・社会科学編』 2021, 第 69 号, 151-68 頁.

研究業績 和氣一成 “Chasing the Specter of Traumatic Slavery: Poetics of Postmemory in Octavia Butler’s *Kindred* .” 中央大学 『人文研紀要』 2021, 100, 37-71 頁.

研究業績 和氣一成 “Where is your fire?: Horror, Traumatic Pasts and the Becoming of History in *Lovecraft Country* (HBO 2020).” 早稲田大学 『学術研究：人文科学・社会科学編』 2022, 第 70 号, 151-68 頁.

研究業績 和氣一成 “Candyman, the Specter of Past, Present, and Future The Analysis of *Candyman* (2021) through Hauntology ” 中央大学 『人文研紀要』 2022, 101, 11-34 頁.

研究業績 和氣一成 “Melancholic Hope: A Study of the Echo of Slavery in the Works of August Wilson” 早稲田大学 『学術研究：人文科学・社会科学編』 2023, 第 71 号, 135-54 頁.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Wake Issei	4. 巻 70
2. 論文標題 Where is Your Fire?: Horror, Traumatic Pasts and the Becoming of History in Lovecraft Country (HBO 2020)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学 『学術研究：人文科学・社会科学編』	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Wake Issei	4. 巻 101
2. 論文標題 Candyman, the Specter of Past, Present, and Future The Analysis of Candyman (2021) through Hauntology	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『人文研紀要』 中央大学人文科学研究所	6. 最初と最後の頁 不明
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Wake Issei	4. 巻 69
2. 論文標題 Black History as Black Horror -The Analysis of the Film Get Out through Trauma Theory-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学 『学術研究：人文科学・社会科学編』	6. 最初と最後の頁 151 - 168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Wake Issei	4. 巻 97
2. 論文標題 Chasing the Specter of Traumatic Slavery: Poetic of Postmemory in Octavia Butler 's Kindred	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文研紀要 中央大学人文科学研究所	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 WAKE Issei	4. 巻 68
2. 論文標題 Spirit of the Dead, Rise Up! : Rewriting the Slavery History through the Palimpsest Historiography in Sankofa	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田大学 『学術研究 : 人文科学・社会科学編』	6. 最初と最後の頁 177-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 WAKE Issei	4. 巻 94
2. 論文標題 To the Ear of the Other:Rhizome Self-Adaptation in the Works of J. T. LeRoy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央大学 人文研紀要	6. 最初と最後の頁 39-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 WAKE Issei	4. 巻 71
2. 論文標題 Melancholic Hope: A Study of the Echo of Slavery in the Works of August Wilson	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 早稲田大学 『学術研究 : 人文科学・社会科学編』	6. 最初と最後の頁 135-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 和氣一成
2. 発表標題 Tender Is the Nightと交差するアダプテーション
3. 学会等名 F.スコット・フィッツジェラルド協会 2019年度全国大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 和氣一成（共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 22
3. 書名 『照応と総合 土岐恒二個人著作集 + シンポジウム』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------